

179 低マグネシウム血症

| 担当 | 検査チャート |
|---------|---|
| 家畜保健衛生所 | <pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --> B["(4) 血液生化学検査"] C["(2) 臨床検査"] -- "(死亡畜、と畜等)" --> D["(3) 剖検"] C -- "(血清、血漿)" --> B B -- "(+)" --> E["(+)", solid] B -- "(-)" --> F["(-)", solid] D -.-> G["(5) 病理組織検査", dashed] G -.-> H["(+)", dashed] G -.-> I["(-)", dashed] </pre> |
| 病性鑑定施設 | <p>(+)</p> <p>(-)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p> |
| 判定・結果 | <p>(+)</p> <p>(-)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p> |
| 最終判定 | <p>判定は総合的に判断する。</p> |
| その他 | |

→類似疾病検査

- ① 21 破傷風
- ② 181 ケトーシス(神経型)
- ③ 177 硝酸塩中毒
- ④ 178 尿素中毒
- ⑤ 180 分娩性低カルシウム血症

(1) 疫学調査

- ① 低温多湿の初春に多発する。
- ② 場合によっては秋期あるいは冬期に多発する。
- ③ 改良牧野や火山灰土壌などの低マグネシウム土壌で、窒素およびカリウムを過剰施肥している牧野に多発する。
- ④ 放牧開始後 2～3 週間で発生する。
- ⑤ 泌乳量の多い子付母牛に好発する。
- ⑥ 過去に本症の発生があった。
- ⑦ 放牧牛以外の舎飼い牛でも発症する。

(2) 臨床検査

- ① 一般症状の悪化
- ② 歩様の強拘、後躯蹠踉、知覚過敏、鼻鏡および身体各部の振戦、不穏興奮、強直性痙攣、起立不能
- ③ 心音混濁、不整脈、頻脈
- ④ 呼吸数の増加、泡沫性流涎
- ⑤ 可視粘膜のチアノーゼ

(3) 剖 検

- ① 皮下脂肪・筋肉内・体腔漿膜の出血斑

(4) 血液生化学検査

- ① 血清マグネシウム濃度の測定:1mg/dl 以下に低下
- ② 血清カルシウム濃度の測定:しばしば7mg/dl 以下になることがある。

(5) 病理組織検査

漏出性出血。特に大脳および小脳半球の白質